



夏場の火の取り扱いに注意

夏場は花火やバーベキューなど、火を使うことが多く、不注意による事故が多発します。

火災やけがなどの事故が起こらないよう注意し、ルールとマナーを守って楽しい夏にしましょう。

■ 発電機は給油時に停止させる

ガソリンの引火点は、マイナス 40 度です。給油中にこぼれたガソリンが発電機のマフラーなどにかかるると発火する危険があります。発電機を停止させて、しばらく冷ましてから給油してください。

■ 間違った使い方でカセットボンベが爆発

カセットコンロ使用時に、大きな鉄板や鍋などを乗せないでください。熱がこもりやすく、カセットボンベが加熱され、爆発することがあります。

■ 露店などの届出

この夏、祭礼や縁日など多くの人が集まる催しで、火気を使用する露店などを開設する場合は、開設の 3 日前までに「露店等の開設届出書」を管轄の消防署または分署へ 2 部提出してください（例：自治会などの夏祭りや、ガスコンロなど火を使う露店を出店する場合など）。

彦根防火保安協会からのお知らせ

危険物取扱者試験（乙種第 4 類）予備講習会

🕒 9 月 10 日(日) 9：00～17：00

📍 消防本部（西今町）3 階大会議室 定 50 人（先着順）

💰 5,000 円（彦根防火保安協会会員事業所は 3,000 円）
※テキスト代は別途

📅 8 月 21 日(月)～9 月 8 日(金)に講習費用を添えて直接窓口

📞 彦根防火保安協会（〒522-0054 西今町 415 彦根市消防本部消防総務課内）☎ 22-0314 FAX 22-9427

チケット情報

ひこね市文化プラザ

9月3日(日) 14:00 グランドホール

ひこね市民大学特別講座

伊沢拓司講演会「楽しい」から始まる学び

指定 【好評発売中】 小学生以上 託児あり(有料・要予約)

一般 2,000 円 友の会 1,700 円 親子ペア 2,500 円

中学生以下 1,000 円 友の会中学生以下 700 円

※親子ペア券は一般 1 名と中学生以下 1 名の方が対象です。

入場は 2 名そろってお願いいたします。おひとりでは入場できません。



9月12日(火) 18:30 グランドホール

ひこね市民大学特別講座

近江ヒストリア講座 磯田道史講演会

自由 【入場整理券配布中】入場無料

配布場所：ひこね市文化プラザ・みずほ文化センター・彦根商工会議所

主催：彦根商工会議所・世界遺産でつながるまちづくりコンソーシアム



10月6日(金) 14:00 グランドホール

航空自衛隊 航空中央音楽隊 彦根公演

指定 【往復はがきにて申込制】入場無料

◆申込期間 8月1日(火)～同24日(木) (必着)

※3歳以上座席必要
2歳以下膝上鑑賞可

◆申込方法 往復はがき往復の裏面に①郵便番号・住所②氏名・ふりがな③電話番号④希望枚数(2枚まで)を、返信の表面に郵便番号・住所・氏名を書いて、〒522-0055 野瀬町187-4 ひこね市文化プラザ内 航空中央音楽隊彦根公演係」までお送りください。

※応募は 1 人 1 通に限ります。はがき 1 通につき 2 枚まで。※応募多数の場合は抽選となります。指定席でのご案内となり、座席はこちらで決めさせていただきます。前後や通路を挟んだ席でのご案内となる場合があります。※結果は「返信はがき」で応募者全員にお知らせします(無効はがきを除く)。※応募はがきの到着確認や当落などのお問合せはお受けできません。返信はがきの到着までお待ちください。※応募に関する個人情報の取扱いは本公演に関するもののみで使用し、その他の目的で使用することはありません。本件の申し込みをもって、ひこね市文化プラザホームページに掲載するプライバシーポリシーに同意したものとみなします。

申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

チケットはインターネットでもご購入いただけます。https://bunpla.jp/

8月の休館日：7日(月)、14日(月)、21日(月)、28日(月)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。

※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

みずほ文化センター

8月11日(金・祝) 14:00 多目的ホール

彦根亭 みずほ密席

vol.49「葉内公演」

自由 【好評発売中】

前売：500 円 当日：600 円

小学生以上 託児あり(有料・要予約)



漫才/シブオンブ、クロボシ 落語/笑福亭生寿、笑福亭恭瓶の 4 組が出演します。

9月23日(土・祝) 14:00 多目的ホール

滋賀県アートコラボレーション事業「森の音楽会」

自由 【好評発売中】

一般 前売 2,000 円 当日 2,500 円

青少年(24歳以下) 前売 1,000 円 当日 1,500 円

※3歳以上有料

NHK Eテレ「ピタ

ゴラスイッチ」でも

お馴染みで、あらゆる

層から歓迎される

インストゥルメン

タル・バンド「栗

コーダーカルテッ

ト」、NHKみんな

のうた「ウメボシジンセイ」の歌と演奏(ギ

ター)などでもお馴染みの「ビューティフル ハ

ミングバード」、優れた音楽性・パフォーマン

ス性で高い評価を受ける手作り竹楽器の演

奏集団「東京楽竹団」が共演する今回だけの特

別な音楽会です。



申込・お問い合わせ先

みずほ文化センター ☎43-8111 (9:00～17:00)

8月の休館日：1日(火)、8日(火)、12日(土)、15日(火)、22日(火)、29日(火)

◎表記の価格は全て税込価格です。

◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。

子ども 1 人 1,000 円。各ホールまで事前予約が必要です。



8 月 29 日(火)まで

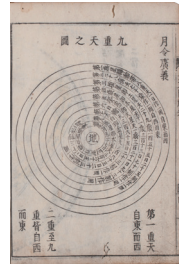
「仰ぎて天文を見る —江戸時代の天文学・暦学・星占い—」

古くから人間は天体を観察してきました。日本においても、中国や西洋の影響を受け、天体観測に基づいた天文学・暦学、占星術などを通して、天文と向き合ってきました。本展は、古文書や天文に関する書物、望遠鏡などから、江戸時代の天文学の歴史や天文にまつわる文化を紹介するものです。

「江戸時代における天文の理解について」

江戸時代の人々は天文現象をどのように理解していたのでしょうか。著書で天体の運動を論じた国学者長野義言など彦根ゆかりの人物の事例もあわせて紹介します。

▶天文図解(部分)



【日時】8 月 19 日(土) 14：00～15：30

【講師】当館学芸員 【場所】講堂

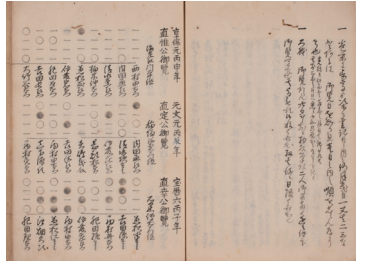
※資料代 100 円 (観覧料は別途必要)

※当日受付 (先着 50 人、受付は 13:30～)

彦根城博物館の学芸員が、各自の研究テーマについて、日頃の研究の成果を踏まえて解説します。

「彦根城下のなかの足軽」

彦根藩では 1000 人を超える足軽を 37 組に編成し、城下の善利橋などに集住させました。本講では、新出資料をもとに各組の居住分布を復元し、彦根城下と足軽組の関係に迫ります。



▲御入部御覧留(部分)

【日時】8 月 26 日(土) 14：00～15：30

【講師】当館学芸員 【場所】講堂

※資料代 100 円 (観覧料は別途必要)

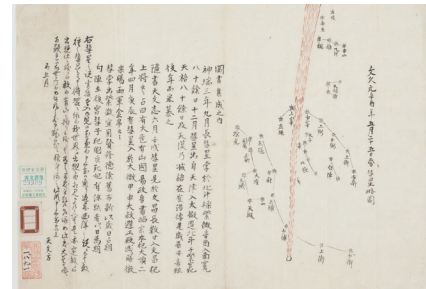
※当日受付 (先着 50 人、受付は 13:30～)

■ 8 月 30 日(水)、同 31 日(木)は、展示替えのため一部休室します。

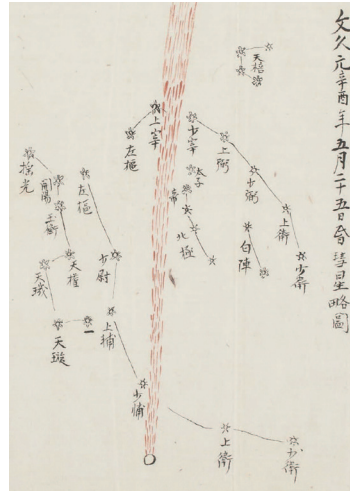
幕府天文方による彗星の報告

文久元年(1861)5月25日、江戸の北の空に巨大な彗星が現れました。この彗星は、発見者であるオーストラリアのジョン・テバットの名から、テバット彗星と呼ばれています。この時、天体観測や暦の作成などを職務とする幕府天文方は、観測した彗星と関連情報についての報告書を作成しました。写真はその報告書の写しです。星座の中に長く伸びる彗星の尾が朱で描かれ、その後ろに、中国の文献にある彗星の出現後に世が乱れた記事が列挙されています。提出先は明記されていませんが、幕府の上層部と思われる。彗星の先端は「少輔」という星の少し下であり、尾は「帝」の近くから「上宰」と「少宰」の間を通るように伸びています。これらはいずれも中国の星の名称です。西洋の星座で言うと、「少輔」はおおぐま座 24 番星、「帝」はこぐま座 β 星、「上宰」はこぐま座 γ 星、「少宰」はりゅう座 η 星に当たり、さらに尾はヘルクレス座の方へ伸びています。日本では古くから彗星は災いの兆しと考えられていました。三年前の安政 5 年(1858)に彗星が

▶彗星略図(彦根藩井伊家文書)



写真の古文書は、企画展「仰ぎて天文を見る」で 8 月 29 日(火)まで展示します(期間中無休)。



▲彗星略図(部分)

出現した後に京都でコレラが流行したこともあり、この彗星も危機の兆しと認識されました。しかし天文方は、彗星を凶兆とする中国の文献を示しながらも、「近來の西洋の説では彗星は循環によって我々の世界に出現するものであり、今回の彗星も定まって出現したもので、敢えて吉凶に拘ることではない」と、科学的な姿勢の意見を述べています。その一方で「今回のような大星は稀なので、世の中でどのように言われるかは計り難い」とも述べています。大彗星の出現により流言が飛び交う可能性があるかと、天文方は認識していたことがわかります。江戸時代は西洋科学的な天文学が受容された時代ですが、社会全体では天文現象に対する科学的な認識は必ずしも広まっていなかったことが窺えます。【彦根城博物館学芸員 荒田雄市】

よきの玉手箱

博物館からのメッセージ